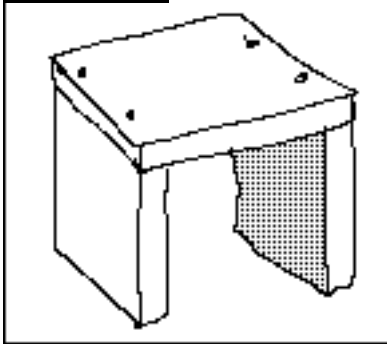


GNOMES



近所をママチャリでふらふらと走っていたら人相の悪いのが乗ったバイクにつかまった。「おー、高村ー、ちょっと用事があるからそれが終わったら後で寄るぞー。」と叫んでまた走っていった。中学のときの担任の先生なのだ。今日こそは酒を抜こうと思ったのになー、困ったことだと、まあ仕方なく車庫で木のベンチを作っていたら数時間後バイクがバタバタやってきて「なーに作ってるんだー。そんなやわなのじゃー役にたたーん。」と騒いでいる。まあ、技術の先生だったから仕方ないが、「それでなー、バイクだと飲めんから、家で飲もー。ついてこい。」となどと叫ぶものだから仕方なくママチャリでバイクを追いかけることになった。けっこうバイクは早いから

なかなか追いつけないものだ。久しぶりで奥さんにもお会いしてどうもどうもとやっていたら「あのなー、メールが全然動かんのだー、見てくれー。」と来た。そうだな、黙って飲ましてはくれんわなーと思いがやむを得ず見てみるがやっぱりお手上げだった。私はアメリカンオンラインだから他のは良くわかんのだ。「それでだなー、フロッピーに入れるにはどーすんだ！」と耳元で叫ぶお方のためにまあ、せっかくだからフロッピーへのデータのコピーのやり方程度をお教えしてさっさとビール方面に走ってしまった。先生のところでしらふで帰ったためしがない。それは初めからだったが、あの頃はウイスキー専門だった。取っ手付きのウイスキーの徳用ボトルを抱えて飲んでいた覚えがある。「今日はいい酒がある。」と言いつつ出してきたのがいつものレッドではなくゴールドだったりもした。帰りはみんなまともに自転車に乗れずに畑の中の線路に沿って自転車を引きずりながらふらふらと校歌なんぞをがなりながら1時間程度歩いて帰った。自宅の近所で友人と別れたが、そいつは道路いっばいに蛇行しつつ去っていった。それから数ヶ月びっこを引いていたがまさか、酔っ払って自転車の車輪に足を突っ込んで・・・などとは学校では言えずに苦しんでいた。彼はあのままアルチュウ街道を突っ走っていったが、担任がいけないのだと前に本人が言っていた覚えがある。まあ、のんべいはみんな人のせいにするものだ。しかしその山屋の先生を見つこっちもネパールまで行ったのだから、まあ、影響は確かにあったのだ。「あの先生がヒマラヤの遠征にいけたのだから、おれ達がいけないわけがない。」「そーだそーだ。こっちだっていけるはずだー。」というわけで2年後にはこっちも行ったのだから。

帰りに先生が作った椅子をママチャリに縛り付けて帰ってきた。「先生、これはただ材料が丈夫だというだけで誰でも出来ますよ！」「そんなことはないぞー。こんなにしっかりと作るってのは大したもんなんだー。」と言っていたがそれはただ板が厚かったから丈夫だというだけのような気がした。そんなこんなで相変わらず毎日がバタバタと過ぎていきます。

7月の「まなざし」の編集は17日におこないます。このところ電子本も作るから結構大変です。連休でなかなか時間もとれないでしょうが手伝いのかたはよろしく願いいたします

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03-5600-0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com